

まえがき

本調査研究報告書は、アジア経済研究所において 2014 年度から 2 年間の研究期間で実施されている「アジアにおける航空貨物と空港」研究会の 1 年目の中間報告書である。この研究会では、アジア地域における航空貨物輸送の現状を明らかにするとともに、航空貨物輸送に必須である空港に着目し、近年の動きや航空貨物の拡大要因を明らかにすることを目的としている。そのために、この報告書では研究会を通じて、アジア地域における航空貨物輸送やアジアの主要空港の現状分析を中心に、報告書をまとめた。

航空貨物輸送は海上輸送に比べて、輸送重量では圧倒的にその割合は小さい。しかしながら、海上輸送よりも速く輸送ができることもあって、国際物流では近年注目されている輸送手段である。また、航空機によって輸送された貨物の揚げ降ろしを行う場所である空港でどのようなインフラ整備を行うのか、あるいはいかに効率的に運営するのか、といった視点も国際物流を考える上では必要になってきている。この背景には、1990 年代以降の経済のグローバル化、企業のグローバル化が挙げられる。グローバル化の進展にともない、製造業では国の枠を超えた分業体制が確立した。そのなかで製造業者はいかに効率的な国際物流体制を作り上げるかが重要視され、航空貨物での輸送も海上輸送と並ぶ重要な手段になったのである。

アジア経済研究所では、2005－2006 年度にかけてアジア地域における物流についての研究会を立ち上げ、その成果を 2007 年に池上寛・大西康雄編『東アジア物流新時代—グローバル化への対応と課題』として出版した。また、海上輸送については、2011－2012 年度にかけて実施し、その成果を 2012 年に池上寛編『アジアにおける海上輸送と中韓台の港湾』として出版した。

海上輸送だけではなく、航空貨物輸送の分野でもその環境は近年大きく変化している。たとえば、中東系航空会社が貨物専用機を大規模な数の発注や購入を行い、貨物輸送量を大きく伸ばしている。また、全日本空輸（ANA）が沖縄那覇空港をアジア地域での航空貨物輸送の拠点として位置づけ、アジア主要国・地域および日本の空港で集荷した貨物を深夜に那覇空港に貨物専用機で運んで積替えを行い、翌日には貨物が届くような輸送体制を構築している。このように、航空貨物や空港の状況が大きく変化している状況を踏まえ、航空貨物輸送や空港に焦点を絞った研究会を発足させた。

研究会では、執筆した委員のほかにもオブザーバーとして工藤年博・研究企画部部長、伊藤匡・新領域研究センター技術革新・成長研究グループ長にも参加していただいた。また、2014 年度の研究会は実施 1 年目ということもあり、外部から航空貨物や空港に関する研究者、実務者などを講師として積極的に招き、航空貨物や空港についての現状を把握した。玉城恒美・沖縄県商工労働部産業振興総括監、河田敦弥・国土交通省航空局航空ネ

ットワーク部航空ネットワーク企画課空港改革推進室長，菅原淳子・電気通信大学准教授（当時），嶋崎聡・株式会社 ANA Cargo 取締役ソリューション事業部長），田中元樹・ヤマト運輸株式会社グローバル事業推進部課長，小倉重夫・成田国際空港株式会社事業部門貨物事業部長，竹林幹雄・神戸大学大学院海事科学研究科教授，滝本哲也・株式会社南海エクスプレス取締役の各氏には多忙のなかご報告いただき，今後の研究を進めるにあたって貴重な示唆をいただいた。また，成田空港株式会社には訪問させていただき，見学する機会も与えられた。記して謝意を申し上げたい。

なお，この報告書は2年研究会の1年目の中間報告書であるため，まだ十分な検討や整理が行われていない部分もある。こうした部分については，2年目の研究会でさらに検討し，調査や研究を続けていくつもりである。読者の方々にはコメント，アドバイスなどをいただければ幸いである。2016 年年 2 月に提出する予定の最終成果ではより現状に即した研究をすることによって，アジア地域の航空貨物輸送や空港の発展が明らかになるような報告書を作成していきたい。

2015 年 3 月
編 者